

宮原巍氏（50期）のお別れ会

宮原 豊（9組）

昨年11月24日に85歳で帰らぬ人となった「ヒマラヤのドン・キホーテ」こと宮原^{たかし}巍氏のお別れ会が2月8日（土）、アルカディア市ヶ谷（私学会館）において開催されました。

故人の交友関係の広さから山岳会、日本ネパール友好協会、観光事業の方々など多方面から300人以上も参加される中、上田高校関係では堀内弘栄氏（51期）をはじめ何人かの先輩方が参列されました。



「ネパールの人々のために」という一念でヒマラヤ観光開発に一生を捧げた偉大な先輩でありました。古くからの友人達が挨拶の中で語られたのは、夢を夢に終わらせずに事業として実現し、ネパールに新たな雇用を創出した情熱の人だということでした。本人にとっても開発と環境のバランスは重要なテーマだったと思います。ホテル・エベレスト・ビュー建設当時のことをよく知る大学山岳部の友人が「最初ホテル建設に反対していたヒラリー卿が、ネパールの人々のためにと語る巍さんの情熱を理解してくれたことを本当に喜んでいた」と紹介されました。悲願であった秀峰アンナプルナを眺望するホテル・アンナプルナ・ビューはワールド航空に引き継がれ昨年の秋にグランド・オープンしました。

誰にでも真似のできることでないですが、物静かに夢を語って人々を動かし、ネパールにホテルを3軒建てました。会場に置かれた若い頃の写真には「人々を惹きつける愛嬌のある笑顔」が溢れていました。私は、後継者の娘さんの挨拶や数々の送る言葉を聞きながら、校歌の「いざ百難に試みん」を思い出していました。事業が未永く立派に継承され発展されることを祈ります。

（2019年12月2日掲載の追悼文も参照ください）



写真：左 ホテル・エベレスト・ビュー近くの丘で

左下 この丘で茶毘に付されました

下 ホテル・アンナプルナ・ビューのスケッチ

